

山形市PTA連合会 会報

じゅひょう

山形市PTA連合会ホームページ ymgtcity-pta.com

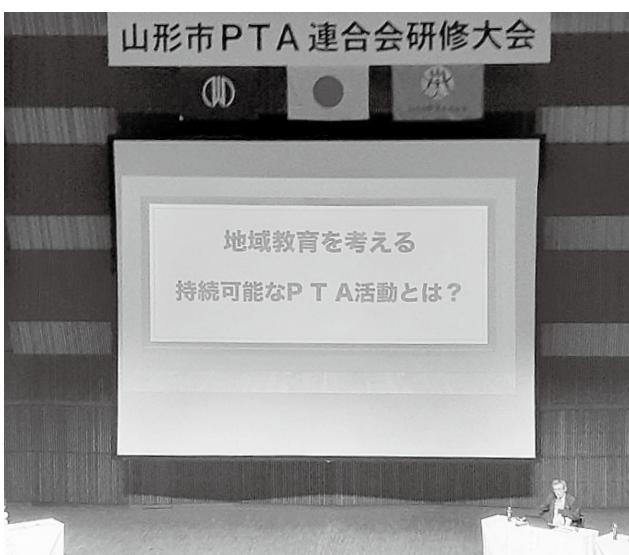


検索

第41号

令和5年12月発行

発行 山形市PTA連合会
会長 武田 靖裕
山形市十日町一丁目6番6号
(県保健福祉センター内)
TEL 023-631-0055
FAX 023-635-4359



第66回山形市PTA連合会研修大会(山形テルサ)7月9日(日)

『人とひとのつながりを再確認しよう!』

～愛する子供たちの健全な育成と幸福のために～

HP:<https://www.ymgtcity-pta.com>



山形市PTA連合会 会長 武田 靖裕



日頃より山形市PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおいても子供たちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋として、ご尽力いただいておりますことに心より感謝と敬意を表します。

昨年の8月26日・27日に第70回日本PTA全国研究大会山形大会が通常開催されました。山形市PTA連合会にとって、共に汗を流した皆様とのつながりの共有やよりよいPTA活動への理解の醸成など、多くのものを得ることができました。また、令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザなどと同じ5類感染症に変更され、単位PTAでも様々な活動が実施できるようになったのではないでしょうか。こうした中、山形市PTA連合会は『人とひとのつながりを再確認しよう！』～愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために～のスローガンのもと活動を展開してまいりました。

市PT連研修大会は、「新しい次代を生き抜く力を育む『地域教育』を考えよう！～主体性を持つ持続可能なPTA活動を目指して～」をテーマに、第6ブロックの皆様からご準備いただき開催しました。シンポジウムでは『コロナから学ぶ人とのつながりと地域教育』について講師の先生の話を伺うとともに、主体的に持続可能なPTA活動を構築するために、家庭・学校・地域の連携に加えて、「企業」との連携に着目し、コミュニケーションのあり方やICT教育の推進による家庭教育のあり方などについてパネリストから提言いただき、課題を掘り下げ、さらに解決の糸口を探ることができました。また、新たな試みとして、市内のPTA会員にアンケートを取り、パネルディスカッションに取り上げていただきました。

市PT連教育懇談会は「運動部活動の地域移行について」～生徒にとって望ましい持続可能な部活動と教員の働き方改革の両立を実現するために～をテーマに、市教育委員会の方から「部活動の地域移行と山形市の現状について」のご説明をいただきました。また、親学「いのちの大切さ学習会」では『家庭・地域での性教育～産婦人科医師からお伝えしたいこと～』の講話をお聞きすることができました。

山形市PTA連合会はあらゆる変化に対応しながら、愛する子供たちの健全な成長と幸福を願い、これからも、大きく変化する教育環境に親としてPTAとして出来ることを求めていきたいと考えています。

結びに、山形市教育委員会様をはじめ関係各位の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつといたします。



「繋がり、寄り添いながら、子どもたちを育む」



山形市教育委員会 教育長 金沢智也

山形市PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日頃より山形市の教育にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、学校内外において、子どもたちの健全育成や環境整備にご尽力され本市教育の充実と発展にご貢献いただいておりますことに心より感謝を申し上げます。さらに、武田靖裕会長はじめ、各小中学校のPTA会長の皆様や役員の皆様方には、学校・家庭・地域社会の連携の要としてご活躍をいただいておりのことに対しましても深甚なる敬意を表します。

さて、先日文部科学省調査について、2022年度の全国のいじめや不登校の件数が過去最高との調査結果が新聞記事に掲載されました。いじめについては、早期発見に注力することで認知件数が以前より増え、早期対応に繋がっていると捉えますが、やはりその数については重く受け止める必要があります。私たちはこうした事実を踏まえ、子どもたちの心の声や思いを受け止め、少しでも支援していく必要があります。山形市の青少年指導センターでは、身近な人達に悩みを相談できない子供の助けになればと、「少年相談」を実施しています。「少年相談」は8人の相談員が電話やメールで寄せられる子供や家族からの悩みや困り事に答えています。相談内容は様々で、進路、友達関係の悩み、不登校やいじめなど多岐に渡ります。悩んでいる方の中には、自分がどうしていいのかわからないという方が多いのですが、相談員に話しているうちに自分の中で整理がついたり、前向きな気持ちに切り替わったり、という例も多くみられるようです。深刻な問題が即解決とはならなくとも、解決に向けての第一歩にはなると思われます。また、相談内容に応じて専門機関に繋ぐなど、具体的な支援に向けた連携等も行っております。是非、少年相談というセーフティーネットがあるという事を心に留めていただきたいと思います。

山形市では教育大綱を制定し「郷土を誇りに思い、いのちが輝く人づくり」を理念として、自分を含めた全ての生命と存在をかけがえのないものと感じ、みんながいのちを輝かせ生きる喜びを実感できる教育を推進したいと考えております。また、予測のつかない変化の激しい時代を逞しく生き抜くために、感動・感謝・信頼にあふれた学校づくりを進めております。

山形市PTA連合会の皆様には、これまで様々な活動を通した学びを実践されております。教育懇談会においての「コミュニティスクール」や「部活動の地域移行」についての研修や、母親委員会の皆様方の「いのちの大切さ学習会」や「街頭指導体験」など、実情を踏まえた沢山の学びを実践してこられました。また、各単位PTAの皆さんも各々の地域の特色を活かして行う体験学習や、資源回収・清掃活動などの社会貢献活動など、子どもたちが地域社会と繋がる貴重な学びの場を作っておられます。結びになりますが、市PTA連合会及び保護者の皆様方と今後も共に連携・協力を深め、子どもたちが豊かに輝く山形市の教育を創つて参りたいと思います。どうか引き続きのご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。



PTA活動に期待するもの

山形市PTA連合会 第22代会長 佐藤博之



コミュニティスクールの推進、部活動の地域移行、学校の働き方改革、GIGAスクール構想、いじめ・不登校問題等々、学校を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。我々PTAは今後も持続可能な組織づくりや活動について皆で議論し、考えていかねばならないと思います。

さて、皆さんは式典等で歌われるPTAの歌をご存知かと思います。昭和26年、作詞にあたって春日氏はこのように語っています。

「教育は学校だけがするもの、とか或いは受け持つ先生が全責任を持つべきものである、とかといったような誤ったあなたの古い考えは捨てよう。そして、可愛い子供のためならばどんなに苦労しても自己の責任に於いて立派な人間に育てようとする意欲と堅い決心を持とう。家庭が暗かったら、決して立派に子供は成長しないのだ。一人ひとりが高い知性と深い愛情を持たない限り、いくら学校の制度をえてみたり、PTAの組織をいじくりまわしてみたところでどうにもならないのだ。人間性豊かな教師と理解ある親達、これらが堅く美しく直結するときはじめて希望も花咲き、新しい日本の教育も確立するのではないだろうか。」とあります。私は初めてこの文章を読んだ時、心を揺さぶられる思いがしました。PTAの本質を見事に表していると感じたのです。時代に沿った組織・活動を考えるのは重要なことです。しかし、この歌に込められた想いや理念や実績などを理解した上で議論しなければなりません。そして最も大事なことは「制度や組織をいじくりまわすことよりも、自己の責任に於いて子供を立派な人間に育てようとする親の決心」なのではないでしょうか。先人達は我々に何を期待して繋いでこられたのか。未来を語り合う際にはこれまでの歴史に思いを馳せ、今後のPTA活動について多くの仲間とディスカッションをしながらより良い活動に繋げていくことが、今を生きる我々の責任ではないかと感じています。



PTA活動に思う

山形市立鈴川小学校 校長 鈴木伸治



『～家庭・学校・地域の三者で「鈴川おむすび」を～』

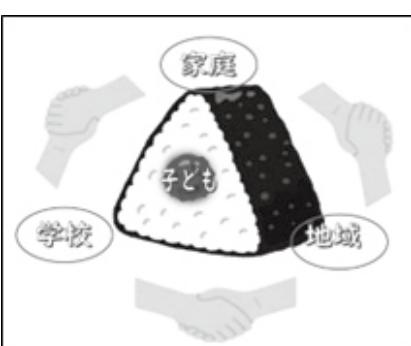
4月8日に、元気いっぱいの新入生を迎え、令和5年度がスタートしました。今年はちょうど桜が満開の時期で、桜の花びら舞う中、お家の方と手をつなぎ、うれしそうに校門をくぐる新一年生の姿が思い出されます。

さて、教育活動の展開は、どの学校においても保護者の皆様・地域の皆様の協力がないと成立しません。とりわけ本校では、児童の見守り活動や読み聞かせ、山家田植え踊り等々のご協力をいただいているところです。ここであらためて感謝申し上げます。

私は、「PTA活動」という言葉を聞くたびに、図のような三角形の「おむすび」を思い浮かべます。三つの頂点を構成する三者が、ほかほかの温かい関係で結び合い、おむすびの具と考える子供たちを育っていくというイメージです。強く握りすぎても美味しいおむすびはできないので、絶妙なバランス(握り

具合)が必要です。また、教師と保護者だけのつながりではなく、その足場となっている地域をも含めることが大事だと考えます。家庭・学校・地域が、それぞれの役割を担いつつ、真ん中の具にあたる子供たちの健やかな成長を願ってやみません。

コロナにより分断されたであろう、これまでのPTA活動も新しい在り方を模索していくタイミングでしょう。そうした中、「子供の成長にとって真に必要なPTA活動」を考えいくために、それぞれが知恵を出し合い、結び合っていきたいものです。



第66回山形市PTA連合会研修大会の開催で考える「地域教育」のあり方



実行委員長 山形市立第六中学校PTA会長 野口 雅弘

令和5年7月9日(日)、第66回山形市PTA連合会研修大会が4年ぶりに山形テルサで通常開催できました。各学校のPTAの皆様、先生の皆様、役員をはじめとします事務局の皆様、関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

この研修大会は、ある意味新たな次代への挑戦というべきものでした。コロナパンデミックによる世界状況は経済社会だけではなく、社会情勢まで一変させてしまいました。子供たちとの距離感、学校との距離感、そして地域との距離感など様々なところで距離感がなくなったような気がしたのは、私だけでしょうか。しかし、この機会でいろんなことも学ぶことが出来ました。学校教育の環境は、地域社会からの支援や諸先輩方の人とのつながりなど学校の存在意義を再認識させていただきました。地域で考えると地域社会は、学区が必要不可欠となっています。しかし、今は山形市内51校全てが同じ環境で学校教育に取り組んではいません。ここ10年以内に統廃合される学校も出てくる現状も認識しなければなりません。その原因は少子化による学校運営の存在意義です。人口減少に歯止めがかからない今、私たちPTAがつながる役割を担わなければならぬと考えます。それは、先生と生徒、PTAと地域の関わり方の課題。そして山形市PTA連合会が学校と共有するビジョンを持つことにより、私たちの存在価値が生まれてくるのではないしょうか。その位置付けとしてこの研修大会が発進の機会となればいいと考えます。

今大会は、「地域教育」というテーマから学校、家庭、地域に「企業」を含めて地域教育を考えてみてはどうだろうかと投げかけてみました。今までの学校教育は、子供たちがたくさん在籍し、運営費や会費も徴収できた時代であり、学校自体が一丸となって地域社会を盛り上げていました。これからの中学校教育もそうなりたいと願いつつも、コンプライアンスの問題、働き方改革による先生の就労時間問題など様々な問題が浮き彫りになることで教育環境も大きく変化していきます。昔ながらではなく、本当に新たな学校教育を考え進めていかなければなりません。特にコンプライアンスの問題で子供同士のつながりはもちろん家庭、学校、地域のつながりを再構築しなければなりません。それにはホームページなど様々な媒体を活用して、情報が共有できる地域コミュニティの構築をPTAが主導となって実践しなければなりません。そして企業を交えて、子供たちが大人になってこの山形に戻ってくる風土、環境を私たちが守り引き継ぐことで、地域コミュニティの継続につながるのではないか。さらに先生と私たちPTAの関係構築もコロナ禍で疎遠になっている学校もあると思います。私たちPTA活動計画も学校生活と連動して子供たちの学べる環境を優先に考え、そして地域コミュニティも同時に考えていきましょう。

これからの中学生たちが取り巻く環境は、大人になった時に世界中の誰もが経験しない高齢化社会となる日本でどのように生きるのか。それは私たちも子供たちと一緒に考えなければならない教育問題であり日本社会の問題です。大きな社会問題から教育環境問題を考える時に、子供たちがどのような大人になるのか、世の中で役に立つ人を育てるられるのかをいろんな角度から考え、地域コミュニティに企業も含めた地域教育を確立し、明るい豊かな山形を創造していきましょう。

実践報告

『人とひとのつながり』 ～愛する子供たちの健全育成～

あなたのままで○(まる) ～和(輪)を作り、新たな挑戦～

山形市立大郷小学校PTA会長 奥山 亮

私たち大郷小学校は、今年度、創立150周年を迎えました。これまでの諸先輩方が築き上げてきた数多くの歴史に触れ、これから新たな輝く未来へ向かうことを子供たち、先生方、地域の方々、保護者と共に決意した次第でした。

昨今、コロナウイルス関連で、子供が成長する機会が失われ、貴重な時間が奪われてきました。未知なるウイルスに生活が脅かされた環境ではありましたが、徐々に緩和されてきた今年度は、色々な活動が再開され始めました。

今年の大郷小学校PTAスローガンは、「家庭、学校、地域で和(輪)をつくり新たな挑戦をしよう！」です。人との距離がどんどん離れていき、楽しいことも辛いことも共有しにくかったことを、また戻すきっかけになることを願い作成しました。何も挑戦できない環境を打破することが、これから子供たちには必要なことです。恐れを減らし、みんなで和(輪)を作っていくことにより明るい未来が待っているのではないかと考えています。

今年、子供たちは、運動会の時に大声で応援をしたり、全校縦割り宿泊学習をしたりと、これまでできなかった体験不足を教育活動の中で学べるようになりました。一つひとつ目の前の挑戦をすることで活き活きとした輝く目が戻ってきたと感じています。保護者も、学年対抗球技大会をしたり、各学年の懇親会を図ったりして、忘れかけていた距離が少しずつ近づいてきたと思います。家庭からPTA活動・教育活動を通じて、学校や地域とも和(輪)をまた作り始められたのではないかと思っています。これからも、子供の心豊かな成長を願いながら、PTA活動を継続してまいります。



新たな第一歩 絆を大切に

山形市立高瀬小学校PTA会長 安孫子 健治

高瀬小学校のある高瀬地区は山形市の北東部に位置し、地区内には村山高瀬川が流れ、周りを山に囲まれた自然豊かなところです。また、「紅花の里 高瀬」としても有名で、スタジオジブリの映画である「おもひでぽろぽろ」の舞台にもなっており、毎年7月に開催される山形紅花まつりには、全国各地から多くのみなさんにお越しいただいています。

今年度の児童数は105人で、少人数の学校であることから、児童や保護者、先生もみんなの顔が分かり、PTA活動にも積極的に参加してくれています。5月からさまざまな活動への行動制限がなくなつたことから、4年ぶりにソフトバレーボール大会を開催し、大いに盛り上りました。また、11月2日に、第62回全国学校体育研究大会山形大会の分科会が高瀬小を会場に行われたことから、全国からの先生方を迎えるため、10月に校舎の美化作業についても協力してきたところです。

そのほか、子供たちの学びの場である、いのは山の草刈りや登山道の枕木の修繕などの整備を行っています。併せて、休耕している畑を活用してサツマイモの苗植えと収穫体験なども行っており、これらの活動は地域で取り組んでいる多面的機能支払交付金事業の一環として実施しています。資源回収や登校指導、会報「いのは」の発行、母親委員会の中学校の制服・体育着りサイクルなどの活動にも取り組んでいます。

今年度のPTAスローガンは、「新たな第一歩 絆を大切に」です。アフターコロナ時代に入り、引き続き絆を大切にしながら、時代に合わせた活動に新たな取り組んでいくことを目標にしています。今後とも学校や地域とのつながりを大切にしながら、みんなが気軽に参加でき、少しでも成長できるPTA活動にしていきたいと考えています。



りを再確認しよう!』 な育成と幸福のために~

戻りつつある「日常」の大切さ

山形大学附属小学校PTA会長 長谷川 吉之介

山形大学附属小学校は、千歳山の麓に校舎を構え、本年5月19日で開校73周年を迎えた、県内唯一の国立大学附属小学校です。地域における先端教育の実践校として、先生方は新しい教育の形に果敢にチャレンジすると共に、愛情と情熱たっぷりに子供たちを見守ってくださっています。本校のPTA活動は「一人一役」をモットーに、保護者の皆様から役割を担っていただき、各専門部に分かれ活動をしております。ただ、昨年度までのコロナ禍の期間においては、多くの活動が中止や規模縮小を余儀なくされ、保護者間や学校との関わりが希薄になっていました。そこで今年度は、コロナ禍前に行っていた学年ごとの保護者懇親会を、学年の先生方もお招きして開催しました。開催が初めての学年もあり、保護者同士が知り合って言葉を交わし、また、先生方から子供たちの日々の様子を聞くことで、様々な繋がりを強くするいい機会になったのではないかと思います。

各専門部の活動として、学級委員長、総務部は連携して上記懇親会の設営をしていただきました。また、今年度は4年ぶりに卒業を祝う会（謝恩会）を開催予定で、先生方に感謝をお伝えし、卒業の区切りとなる素晴らしい会になるよう鋭意準備を進めております。広報部は年2回の学内広報紙の作成を担当いただき、今年度も広報紙を発行いただきました。安全部は朝の登校時の立哨指導を月2回行っています。研修部はフリーアナウンサーの菊地喜美子先生をお招きし「親子で心がまるくなる言葉」を演題とする研修会を開催しました。保体部は、4年ぶりに通常開催となった運動会でのサポートと、校外ソフトボール大会へ参加いただきました。母親委員会は卒業した子供たちの制服リユース会の開催、市P連等の外部研修会への参加等活動いただいております。

コロナ禍を経て、「持続可能なPTA活動とは」をテーマに、諸活動の見直しをかけ、活動そのものをスリム化しました。ですが子供たちの健全な育成のために、先生方と私たち保護者が関わり合いながら行うPTA活動は必須であると改めて感じております。ようやく取り戻しつつある日常の大切さを感じながら、今後も子供たちのための活動を続けていきたいと思います。

コロナ禍を経て

山形市立第四中学校PTA会長 花邑了善

創立76年を迎えた山形市立第四中学校は、山形市中心より北東へ位置しています。山形市総合スポーツセンターと、きらやかスタジアムが地区内にあり、スポーツ推進を掲げた地区に四中は立地しています。主要小学校は、鈴川小と千歳小と東小の3校より構成されており、今年度の生徒数は、641名でスタートしました。四中は、「立志・建学・貢献」を教育目標に掲げ、社会の荒波に立ち向かえるように自立した心を持つ生徒を育てています。

令和5年度PTAの活動目標を「創 子供の未来へ今できること」として、活動を始めました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響があり、昨年同様、積極的な活動は行わないとの学校方針の下、PTAにおいても専門部の活動を一部のみとして、他の活動は自粛しました。活動を実施した専門部は、広報部のPTA会報の発行、母親委員のリユースバザーのみです。従来は、5つの専門部を組織して活動しています。具体的な活動は、文化環境部の文化講演会、校舎校地の整備活動。生徒指導部の校外指導。広報部のPTA会報～みやまうすゆき草～発行。保健体育部の球技大会の実施。母親委員会のリユース等を計画していました。

四中PTAは、ここ数年の自粛により、ほぼ活動ができていません。活動内容についても、実施していないために、引継ぎがうまくできていないのが実情です。一から検討する必要があります。保護者の役員選出の負担や教職員の働き方改革を考え、PTA体制と行事内容の変革を考えなければならない時期ではないかと思います。今年度は、令和6年度に向けたPTA組織のスリム化と行事の見直しに取り組んでいます。現時代に沿った、PTA会員の負担を軽減し、誰もが参加しやすい山形市立第四中学校PTA構築を目指しています。



令和5年度山形市PTA連合会教育懇談会 — 報 告 —

山形市PTA連合会 研修委員長 長谷川 吉之介

テーマ：「部活動の地域移行について」 ～生徒にとって望ましい持続可能な部活動を実現するために～

9月29日(金)、山形市PTA連合会教育懇談会を実施しました。当日は、金沢教育長をはじめ市教委の皆様、各学校のPTA会長、母親委員長の皆様よりご参加をいただきました。

公立中学校の休日の部活動の段階的な地域移行が始まります。休日の部活動を地域移行する背景には、学校の教育現場で部活動に取り組む「生徒」と、それをささえる「教員」や「学校」が抱えるさまざまな課題があります。山形市でも部活動改革を検討する組織が設置されました。初めに、山形市教育委員会学校教育課主任指導主事(兼)保健体育係長の高橋圭史様より、「部活動の地域移行と山形市の現状について」を説明していただきました。

それを受け、グループごとトーキーライダーを中心に話し合いを行いました。自己紹介の後、各校・各地区の部活動の課題と地域移行について、「子供が少なく団体が組めない」「〇〇・〇〇はスポ少で指導者がいるので移行しやすいのでは」「指導者の確保や報酬、送迎や保護者の負担はどうなるのか」など多くの意見がありました。その後「部活動の地域移行についての保護者としてできることは」「地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備するには」について話し合いが行われました。「子供たちの選択・幅ができるのはありがたい」「指導者にお願いしたいが責任が…」「家庭によっては送迎などができる、格差ができるのではないか」「部活動の任意加入は子供のためになるのか(放課後の過ごし方・連帯感・やり通す力など)」等の意見があり、各グループとも活発に話し合いが行われました。

参加者の感想には、「地域移行について、初めて詳しく話を聞きました。保護者並びに関係者へ広く現状を広報することが重要と感じました。」「市内の子供たちの活動の在り方を左右する重要なテーマだと思います。多くの保護者・市民にこのような検討が進んでいるといった情報はあまり届いていません。」「課題は山積みしていますが、子供たちのスポーツ・文化活動がよりよくなればと思います。」「学校の部活動の目的とは何かをしっかりと考えながら進める必要があると感じました。」等がありました。



部活動の地域移行は、現在の部活動を単に地域に出すということではなく、各地域の実情やニーズに合わせて、子供たちにとってさらに充実した環境を整備するものです。そのためにも説明会や意見交換会等を広く継続して行うことが必要であると感じました。ご指導いただいた市教委の皆様、熱心に話し合いをしていただいた参加者の皆様、本当にありがとうございました。



いのちの大切さ学習会

「いのちの大切さ学習会」・拡大母親委員会に参加して

山形市PTA連合会 広報委員 石澤 宏一朗

山形市PTA連合会・母親委員会主催の「いのちの大切さ学習会」・拡大母親委員会が、去る令和5年11月4日(土)、山形国際交流プラザ(ビッグウイング)に於いて開催されました。

講師は、産婦人科専門医・日本スポーツ協会公認スポーツドクター、さとこ女性クリニック(山形市)院長の井上聰子先生です。まずご紹介いただいたのは、ご自身の日々の仕事についてでしたが、妊娠・出産や女性特有の病気、不妊治療や避妊指導等はもちろんのこと、思春期・アスリートの健康相談、トランスジェンダーの診療、性暴力被害者の治療・相談など、内容は想像以上に幅広いものでした。また、思春期の相談事にまつわる内容として、高校3年生の性交経験率の推移や、20歳未満の人工妊娠中絶率の推移など、その背景も併せてグラフ等の資料を用いてご教示頂きました。この学習会を通しての私なりの学びは、性についての積極的な教育の場が学校や地域においても、家庭においてももっとオープンであるべき、親である私たちこそ正しい情報を学び子供たちと情報を共有すべき、ということでした。

性を学ぶことは多様性(=人権)を守ること、の意識を持って大人こそ学び子供と向き合っていきたいものです。いざとなったときに子に相談される親になりたいと考えさせられた学習会でした。



第75回 山形県PTA研修大会 西置賜大会に参加して

山形市PTA連合会 広報委員 高橋 愛

令和5年10月8日(日)、長井市民文化会館にて、「育てよう 未来を拓く 子供たち～家庭・学校・地域でつなぐ『やる気』と『学び』～」の大会主題のもと、第75回山形県PTA研修大会西置賜大会が開催されました。

子供たちを取り巻く環境はICT教育や部活動の地域移行等の課題も多く、大きく変化しようとしています。子供たちの健やかな成長は私たちに共通する願いであることを再認識し、PTA活動を通して、子供たちが安心して学び・育っていくことが出来る環境づくりを推進していく決意を新たにしました。

記念講演では、東京大学薬学部教授の池谷祐二氏を講師にお迎えし、「脳から見た学習と成長」をテーマとした講演でした。神經生理学の専門である講師より、学習のカギを握っているとされる海馬を取り上げ、効果的な学習方法や学習を習慣化する方法等を脳波の一種であるシータ波やリップル波との関係を交えて講演して下さいました。なかでも、「良い表情や良い姿勢が感情を形作る」との言葉がとても印象的でした。私たち保護者も笑顔を忘れず、未来に向かう子供たちを見守っていきたいと思います。



第55回 日本PTA東北ブロック研究大会 富谷黒川大会から

山形市PTA連合会 事務局長 大江昌信

10月14日(土)・15日(日)に、第55回日本PTA東北ブロック研究大会富谷黒川大会が開催されました。富谷黒川大会は、「東北一心 新たな時代へ 一期一笑 ~未来を切り開け!持続可能な地域づくり・PTAづくり~」の大会主題のもと、14日には「環境教育」「教育環境」「地域連携」「家庭教育」「人権教育」の5つの分科会が行われました。15日の全体会では、オリンピックのバドミントンで金メダルを獲得した高橋礼華氏の記念講演でした。高橋氏は6歳からバドミントンを始め、中学から親元を離れ宮城県にある聖ウルスラ学院英智中学校へ入学、高校時代に一学年後輩の松友美佐紀選手とダブルスのペアを組みました。その後、着実に実績を積み上げ、2016年のリオデジャネイロオリンピックでは日本のバドミントン史上初となる金メダルを獲得しました。

演題は「夢を実現させる3つの方法」でした。①「ものまねは上達の近道」：この人みたいにプレーしたいということが高橋氏の競技力向上の原点、②「量はうそをつくが、質はうそをつかない」：大切なのは、自分に何か必要なのかを考えて、それを得るためにどんな練習が必要なのかを考えること、③「“あたりまえのレベル”水準を高く」：本当にその夢を目指すのか？強い思いがあれば、辛い練習も厳しい環境もあたりまえに越えなければならない壁という3つの方法だそうです。アナウンサーとの対談方式での講演でした。



第71回 日本PTA全国研究大会 広島大会に参加して

山形市PTA連合会 研修委員長 長谷川吉之介

8月25日(金)・26日(土)に、第71回日本PTA全国研究大会広島大会が、「『変化の時代に向か、PTA自身が学びの変革を！』～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！～広島から全国へ」を大会スローガンに開催されました。全国より6,800名を超える参加者が集まりました。県内から23名(山形市7名)の会員が参加しました。

25日の分科会では、基調講演・実践発表・パネルディスカッションがありました。26日の全体会では、株式会社感性リサーチ代表取締役で人工知能研究者、感性アナリスト、随筆家の黒川伊保子氏より、『心のトリセツ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～』の記念講演でした。

今回の広島大会はテーマに「学びの変革」を挙げています。急激な変化が予想される今後の社会情勢を乗り切るために、保護者も子供も新たな学びが必要という思いが込められていました。新しい時代を生きる子供たちの育成のヒントを得ることができたと思います。

人とひとつのつながりを体感しながら多くの学び、会員同士の連携を深め合うことができた2日間でした。



令和5年度山形市PTA連合会小中学校部会

テーマ：「持続可能なPTA活動を目指して」

山形市 P T A 連合会 小学校部会長 川 崎 博 人

令和5年9月20日(水)、県生涯学習センター「遊学館」で市P連小中学校部会を行いました。テーマは「持続可能なPTA活動を目指して」としました。理由としては、先日開催した今年度の市P連研修大会は、「新しい次代を生き抜く力を育む『地域教育』を考えよう！～主体性を持つ持続可能なPTA活動を目指して～」をテーマとし、主体的に持続可能なPTA活動を構築するために、家庭・学校・地域の連携に加えて、子供たちの保護者が深くかかわる「企業」との連携にも着目し、「地域教育」として何を考え何をすべきかPTAのあり方を考えたことにつながります。

単位PTAでも様々な課題があり、持続可能なPTAのあり方を模索しています。このこともあり、本小中部会で各小中学PTAの課題や実践を共有し、主体性を持つ持続可能なPTA活動の構築を目指したいと考え、部会を開催しました。

初めに、佐藤博之氏(日本PTA全国協議会理事)より「持続可能なPTA活動を目指して」についての講話があり、その後、グループ毎の話し合いを行いました。視点は「各単位PTAの事例紹介、抱えている課題、取り組んでいること、構想等」「持続可能なPTA活動はどうあればよいか」としたところ、各グループにおいて活発な議論がありました。

「グループでの話し合いも多くありました。各学校で起きている様々な問題、その地域ならではの問題、今後の活動に活かせるような他の地域でのイベントや講演会など、参考にできそうなアイディアを見つけることが出来ました。今後もこのような会で新たなものの見え方が出来れば、PTA活動に還元できると思いました。」との感想にあるように、単位PTA同士の情報交換やつながりの大切さを改めて感じた小中部会となりました。



令和5年度 山形市PTA連合会 母親委員会 活動報告

山形市PTA連合会 母親委員長 高橋あゆみ

テーマ：「命の尊さ大切さ」～守りたい。家族の健康とみんなの笑顔～

○定例母親委員會

- ・第1回母親委員会(5/10)……………今年度の活動計画・情報交換
 - ・第2回母親委員会(6/26)……………講演：「アフターコロナにおける子供のこころの支え方」
講師：伊藤 洋子 氏(山形県スクールカウンセラー)
 - ・第3回母親委員会(2/中旬)……………今年度の反省・情報交換

○教育懇談会(9 / 29)……………山形市教育委員会・山形市PTA連合会・母親委員会

○拡大母親委員会(11/4)………講演：家庭・地域での性教育～産婦人科医師からお伝えしたいこと～

講師：井上 聰子 氏（さとこ女性クリニック 院長）

○「親学」家庭教育視察研修(11/21)…山形広域炊飯施設・学校給食センターと市民防災センター

○母親委員会だより「マザーズねっとわーく」№28 3月発行

日々母親委員会の活動にご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。また、単位PTAにおかれましても感染対策に気を付けながらアフターコロナでの活動を再開していただき感謝申し上げます。

母親委員会では保護者同士のつながりが重要と考え、定例会では情報交換に重点を置いています。子供たちの様子や悩みについて話し合い、そこで出た課題や要望の中から、拡大母親委員会の講演内容や「親学」家庭教育視察研修会の行き先を決め、活動してまいりました。各学校での母親委員会の活動内容をお互いに伝え合うことにより、より良い活発な活動に繋がればとも思っております。

わたしたちは、家族が心も身体も健康でみんなが笑顔で過ごせるよう、学び合い・情報を共有し発信することを大切に、これからも様々な活動に活かせるように努めてまいります。

晴れの受賞おめでとうございます

(山形市 PTA 関係)

★ P T A 活動振興功労者文部科学大臣表彰

- ・荒井 寛(山形県市P元会長)
- ・鈴木 真一(山形県市P元会長)

★日本 P T A 全国協議会会長特別表彰

- ・小林 一善(日本 P T A 全国研究大会山形大会感染対策室長)
- ・高見 佳澄(山形県・市P前母親委員長)

★東北ブロック P T A 協議会会長表彰

- (感謝状) ・船橋 吾一(山形県P前会長)

★山形県 P T A 連合会会長表彰

- (感謝状) ・船橋 吾一(山形県P前会長)
・高見 佳澄(山形県P前母親委員長)
・高橋 典子(山形県P前理事)
・江口 俊和(山形県P前理事)
- (表彰状) ・鹿又 源州(山形市P前副会長)
・海和 伸吉(山形市P前副会長)

★山形市 P T A 連合会会長表彰

- (感謝状) ・船橋 吾一(前会長、蔵一中)
・鹿又 源州(前副会長、南沼原小)
・海和 伸吉(前副会長、附属中)
・武田 喜好(前副会長、西小)
・高嶋 敏春(前副会長、第七中)
・小木曾正義(前理事、第三小)
・川崎 充(前理事、第七小)
・木川 浩史(前理事、西山形小)
・横尾 文昭(前理事、本沢小)
・船渡利恵子(前理事、金井小)
・山口絵里子(前理事、蔵一小)
・遠藤 倫(前理事、高橋中)
・後藤 和也(前理事、第一中)
・伊藤 善隆(前理事、第三中)
・太田 孝幸(前理事、第四中)
・高見 佳澄(前理事、山寺小中)
・岡崎 昌平(前監事、滝山小)
・渋谷 義行(前監事、第七中)

◆◆◆令和5年度 山形市 P T A 連合会役員名簿◆◆◆

役職名	氏名	所属 P T A
会長	武田 靖裕	第四中
副会長	長谷川吉之介	附属小
副会長	前田 浩一	第十中
副会長	兼子 佳子	南 小
副会長(T)	鈴木 伸治	鈴川小
副会長(T)	丹羽 英樹	第三中
理事	川崎 博人	西 小
理事	石澤宏一朗	第一小
理事	武田 新世	鈴川小
理事	遠藤 哲也	第四小
理事	高橋 愛	明治小

役職名	氏名	所属 P T A
理事	高橋 啓博	大曾根小
理事	並河 英紀	みはらしの丘小
理事	浅野 和宏	附属中
理事	柏倉 裕司	第一中
理事	近藤 恵一	金井中
理事	高橋 あゆみ	第一中
監事	山口 徹	桜田小
監事	樋口 彰史	樋山小
事務局長	大江 昌信	
事務局員	佐藤 静子	
事務局員	高見 佳澄	

編集後記

コロナ禍により集合会議やイベント開催が制限されるなど、従来の方法による活動の継続が困難な状況が続きました。しかし、令和5年5月から、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更され、単位 P T A でも様々な活動が実施できるようになったのではないでしょうか。今年度の「じゅひょう」のキーワードは「持続可能な P T A 活動」です。市 P 連の活動報告・各校の実践報告や P T A に対する熱い思いなどが載っています。少しでも、楽しみながらの P T A 活動(単位 P T A づくり)の参考になれば幸いです。

(広報委員長 兼子佳子)

